

無所属クラブ 杉本 信之 議員



- ①環境ISO14001の変更について
- ②バイオマスタウンについて
- ③学校給食の食材について

質問① 今までの取り組みの成果は。今後予定する鈴鹿市独自のものはどんなものか、環境施策の後退にならないか。又、エコタウン事業はどうなるのか。

答弁① 職員に環境に対する一定の力量もつき、推進体制が出来た。今後は全職場において簡素で事務量やコストを低減でき、各所属が自己管理の下説明責任が果たせる充実したシステムにしていく。エコタウン事業については本田技研工業(株)鈴鹿製作所が塗装汚泥等を堆肥化しサツキ等の肥料にする予定だったが、塗料に含まれるメラミン樹脂が肥料の品質が低下する

ような異物にあたると農林水産省から連絡があり中止している。今後については国・県と協議していく。

質問② 現状と今後の取り組みはどうか。

答弁② 今年、食品や家畜廃棄物・稲藁などの生物資源がどれくらいあるのかを調べ、その後どの様なものにするかを関係者と協議していく。

質問③ 14,000食を同一献立で同一食材にするので地元産が利用しにくくなる。単独調理校において栄養士の裁量で食材の変更ができれば、地域の野菜を利用した給食にすることが出来るがどうか。給食費は値上げするのか。ご飯の回数を増やせないか。

答弁③ 出来るだけ地元のものを利用するようにしている。契約栽培やご飯の回数は検討する。

あくていぶ21 矢野 仁志 議員



- ①二次救急医療の本市の係わりについて
- ②過労死について
- ③子供達のメタボ対策

質問① MRIに対する1億円の補助金の詳細は。地域医療支援病院の機能は守られているか。救急対応医療機関のERドクターの確保の考えはないか。

答弁① 中央病院に対し、約3億円の事業費の3分の1相当を補助する予定である。地域医療支援病院は、開業医と連携をとり地域医療に寄与するもので、中央病院を中心として十分にその機能は果たしていると考えている。救急医療は財政的な支援だけでなく、市全体で積極的に取り組みたい。

質問② 対策は。月80時間を超えた職員に産業医による面接指導は。対象職員数は。市の現状は。

答弁② 対象職員数は実人数で92名おり、そのうち本人の申し出により面接指導を受けたのは9名であった。業務量が増加している部門に増員を行い、職員の健康管理については、産業医や各所属長との連携を深めていきたい。

質問③ 本市の取り組みは。

答弁③ 国の基準に基づく計算で、肥満傾向にあると判断した子どもに対する適切な生活改善指導や、保護者への周知と協力を努めている。他市の先進的な取組などを今後の対策に活かしていきたい。

公明党 池上 茂樹 議員



- ①消防団支援について
- ②F1再開に向けての道路整備について

質問①(1) 消防団員が年々減少傾向にあるが、消防団員の拡大に向けての、本市の取り組みと現状は。

答弁①(1) 定数455人に対して443人で、消防団員の平均年齢は、41.3歳・65歳以上の消防団員は5人。「制服・活動服等の一新」「健康診断の実施」「企業等への協力依頼」「消防団長の事業所訪問」など改善を行いながら消防団の処遇改善に努めている。

質問①(2) 「消防団協力事業所表示証」は、サラリーマン団員の活動を理解し、支援する事業所の証である。認定状

況と拡大に向けた取り組みは。

答弁①(2) 全国では731事業所で鈴鹿市は17事業所。今後も消防団から事業所にアプローチし一層の協力を求めていき、消防団員が活動しやすい環境づくりを進める。

質問①(3) 消防車庫・待機所の建て替え時の補助金900万円が制定され、12年が経つが補助金の見直しは。

答弁①(3) 今後の社会経済情勢と建築指数の上昇動向の推移を見極めながら検討していく。

質問② 県道稲生山線は、道路幅員が狭く自転車、歩行者が安心して通行できない。道路整備・歩道整備の本市の取り組みは。

答弁② 2009年のF1再開に向けて「環境整備部会」の中で、協議、検討して三重県に対し早期の道路整備をお願いする。